

トキエア Monthly Report vol.3

2021年2月10日

今月のレポートをお届けします。

➤ 業界動向

<厳しい環境にも運航を下支えする欧米のLCC>

1月5日付のトラベルボイス『2021年の航空業界は…』の記事によりますと、「2020年の世界の航空旅客数は前年比で約67%減となり、1999年レベルにまで後退した」とありますが、一方、運航便数が最も多かったのは、米国のサウスウエスト航空（854,000便）、ヨーロッパではライアンエア（205,000便）で、厳しい環境下でもそれぞれの地域を代表するLCCが検討しています。（航空データ提供は、シリウム社「Airline Insight 2020」による）

また、シリウム社は2021年のトレンドとして、アジア太平洋では①航空会社の再編が進み、②小型機を中心とした低コストの機材での運航、また、③航空機リースが全体の50%を超え、主要な調達方法になると予測しています。

トキエアでも、導入予定のATRは低コストでCO2排出量も抑えられ、また調達に関してもオペレーティングリースによる導入を検討し、2月中には決定していく方針です。

➤ 1月の主な活動

<「トキエア」の事業計画の見直しと次期増資に向けた取組み>

前号でお伝えしたとおり3月末の増資に向け、新たな株主となって頂く企業へのアプローチをこの1月も続けておりましたが、併せてトキエアの事業計画について見直しを実施しています。日本空港コンサルタンツ社から提出された需要予測を基に路線のあり方の変更や料金の見直し等による収益の改善、また現在、最終段階にある機材リース交渉に於けるリース料金減額等による支出の抑制を反映した事業計画となる予定です。最終案は、2月中に纏めることとなります。

増資については、①大口となる株主企業とは直接に株式を発行し、②小口でご出資頂く企業・個人の皆様には『株主コミュニティ』を組成することとしました。株主コミュニティとは、日本証券業協会が認めている制度で、非上場株式でありながら、取引を行う場を提供するもので、同協会から指定を受けた証券会社（今回、みらい証券）が、トキエア銘柄の株主コミュニティを組成、運営を行います。既に銘柄としての審査は通過し、株主コミュニティは実際の運用を待つ状態となりました。こちらは、2月半ばよりご案内予定です。

➤ 2月以降の活動について

<増資・融資>

2月15日から、具体的なタームシートを準備し、既株主で増資をお願いする皆様、また新規株主の企業様にスケジュール等の説明をさせていただきます。また、銀行団には、前述の路線毎の需要予測に加え、新潟経済社会センターの経済効果、また新潟県からの具体的支援体制を説明し、増資・融資（合計で11億円強）に向けて活動して参ります。

<リース会社とリース機選定>

リース会社の選定も大詰めとなり、担当は、好条件を引き出す為、連日の遣り取りを行っています。2月半ばにLOI（Letter of Intent 趣意書）に署名し、実際のリース契約書の詳細を詰めて参ります。この契約書締結に当たっては、航空機リースに詳しい弁護士の協力の下に進めます。長期（10～12年）に亘る契約で様々なトラブル等を回避することが肝要となります。現在運航している同業他社では、機材返却の際にトラブルとなった事例もある為、このようなケースを繰り返さぬ様にしています。



トキエア Monthly Report vol.3

2021年2月10日

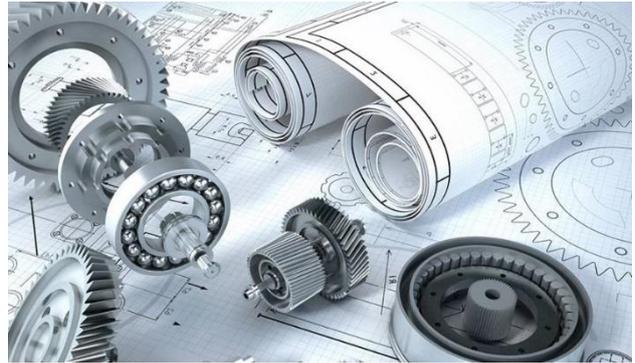
<新潟事務所>

2月に本社の移転登記を行う予定で、主な活動拠点を新潟と、東京の2箇所とします。新潟に於ける本社は、当面、新潟商工会議所や新潟経済同友会の入る朱鷺メッセを考慮しており、航空機が導入されるタイミングで新潟空港に移転となります。

(新潟市内の不動産会社を株主様からご紹介を頂き、幅広い選択肢から選ぶことが出来ました。誠に有難うございました。)

<採用>

年末から年始にかけてトキエアでは、航空整備士並びに整備間接部門の人材を募集しました。航空整備士については、一等航空整備士の資格保有者を要件としましたが、約10名の応募があり、面接を実施しました。航空整備士は、機種毎に資格を取らねばなりません。例えばボーイング社の機材であっても、B737とB767等、それぞれの機種の免許を有していないと整備が出来ません。この新しい機種資格を取得することを「限定変更」などと呼んで



います。新しい機種の免許を取得するには、6か月から9か月程掛かる為、早期の採用が必要となります。また現在、日本国内でATR社の機材は、日本エアコミューター、天草エアライン、北海道エアシステムの3社のみでの運航なので、設立当初からATR資格保有者を採用するのは、難しいと考えてましたが、保有者2名を確保出来ました。また、いずれの候補者も他社に於いて「確認主任者」という整備士の中で最も責任ある立場を経験した方々で、採用も順調に進んでいます。

以上